



15 道重上人碑



13 西の庚申様



14 延命地蔵



1 常盤神社



2 切貫水門



3 大学院お地蔵様

琴芝 ガイドマップ



24 出雲大社



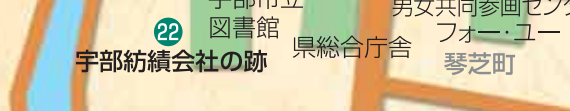
宇部工業高校



山口大学
医学部
附属病院



23 光善寺



22 宇部紡績会社の跡



21 南向き地蔵



22 宇部紡績会社の跡



23 光善寺山門



東新川駅



12 三界地蔵



11 菅公御手洗の池



9 東の庚申様



8 桃色レンガ塀の残る道



7 東見初炭鉱遭難者の墓



6 常盤用水路



10 梶返天満宮

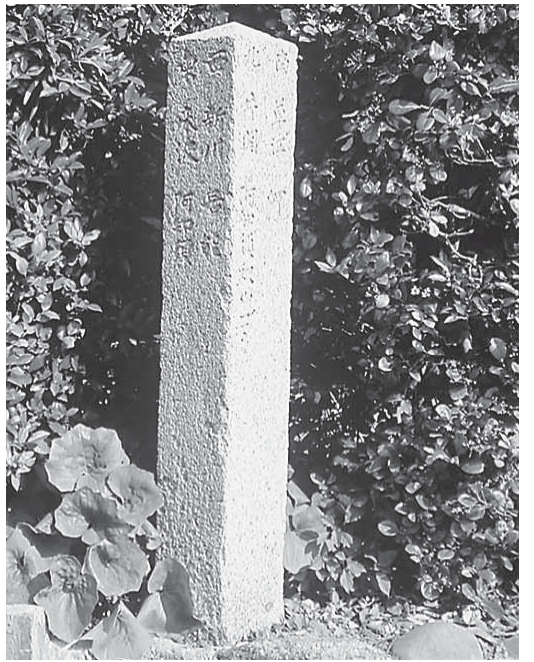
1 常盤神社
とぎわじんじゃ
 常盤池築堤中の元禄8年(1695)、棕梨権左衛門が成就祈願のために罔象女神を祀ったお社を起源とする。
 現在、「水の神」「農業の神」「天候の神」として、罔象女神、速秋津彦神、大歳神、龍田大明神、丹生大明神を祀った神社である。

2 切貫水門
きりぬきすいもん
 元禄10年(1697)2月、常盤湖の西岸に、野中、梶返、琴芝方面へ流す灌漑用取水口として設置された水門である。

3 大学院のお地藏様
だいがくいん
 大学院は幼児園になっており、その隅にお地藏様がある。いわれについては、よく分っていない。



4 戦勝記念碑
せんしょうきねんひ
 野中公会堂の前にある旗を立てる記念碑である。「明治三十七、八年戦役 野中若」と彫っており、その裏には、「旅順陥落記念」と彫っている。明治三十七、八年は日露戦争があり、日本が勝利した記念に立てたものである。



5 道しるべ
みち
 この道しるべには「南 草江、岬。北 井関、阿知須、山コシ。西 新川、居能。東 床波、阿知須」その裏には「明治四十二年一月 飯田、西本建之」と彫っている。その昔、旧道の十字路に建てられた大事な道しるべであった。

6 常盤用水路
とぎわようすいり
 元禄11年(1698)に棕梨権左衛門らにより完成した常盤湖から、導水のため掘られた用水路である。この灌漑用水路のおかげで野中・梶返地区に美田が生まれ、秋にはたわわに穂った稲穂が一面になびいていた。
 時移り、かつて壺が舞っていた小川の風情が消え、今ではコンクリートで固められた雨水路に主役を奪われた。(写真は野中一丁目と野原一丁目の境界筋付近)

7 東見初炭鉱遭難者の墓
ひがしみ ぞめたんこうそうなんしや
 源山墓地の中央に立ち、大正14年(1925)4月12日正午頃に発生した宇部炭田最大の海底陥没事故で亡くなった235人を供養した墓。危険を顧みず避難誘導した事務所棟梁 藤重勝太郎氏も脱出の機会を失い亡くなった。

8 桃色レンガ塀
ももいろ
 塀に使われている桃色のレンガは石灰と石灰を主原料として、たたき締め、干し固める製法で作られた。非常に固く、湿気に強いのが特徴。耐火性があり風呂の焚き口にも使われた。大正時代から昭和40年頃にかけて製造され、廃物リサイクルのさきがけとして歴史的意味を持つ。炭都宇部のシンボルであり、その一部は宇部市立図書館の庭にオブジェとして残されている。
 ※東梶返2丁目 重本宅(左)と大東宅(右)の塀 昭和13年(1938)築

9 梶返の東の庚申様
かじがえし ひがし こうしんさま
 以前からこの付近に「猿田彦大神」の碑があったが、草木におわれお参りする人も少なくなった。戦後、周辺の人々のお力添えにより、新しいお堂が建てられ「お大師様」と一緒におまつりされ、日々の安全を祈願されてきた。

10 梶返天満宮
かじがえしてんまんぐう
 延喜元年(901)、菅原道真公が太宰府に流される途中、暴風に遭い、船頭は舵をこの浜に返して風を避けた。風のおさまるのを待って船出した。のちに、この村の人々は、道真公の徳を仰ぎ、神社を建て、道真公の霊を鎮めた。
ちやくのもり
 着森天神と呼び、村の幸せを祈ってきた。道真公は、学問の神様としてあがめられている。

梶返天満宮の座牛像
かじがえしてんまんぐう ざぎゅうぞう
 嘉永3年(1850)に寄進され、太平洋戦争末期に供出された。子ども達は、神牛像にのって戯れ、最後には牛の顔をなぜ「成績が上がりますように」と、となえた。今の牛は2代目で、1989年頃より復元の話が起り、氏子の方で再建された。

11 菅公御手洗の池
かんこう み たらい いけ
 道真公が、嵐をさけて船から梶返の地にあがられたとき、お手を洗われたといわれる池。梶返天満宮1100年祭記念事業で、立派に復元された。

12 三界地蔵
さんがいじぞう
 三界とは、生死流転する三つの迷いの世界(欲界、色界、無色界)のことであり、苦しんでいる衆生を救われる菩薩を三界地蔵という。防長寺社由来(1718~1763頃)によれば、古来より弘法大師の作とされる石仏ありと記されている。お堂左前には、石の丸い笠をかぶった石碑があり、かつて存在した一里塚のしるしといわれている。

13 梶返の西の庚申様
かじがえし にし こうしんさま
 向って右がお大師様(弘法大師(空海))。病魔悪鬼を取除く仏として慕われてきた。左が庚申様で、付近の人々は、村の危険を防ぎ、人々の安全と平穏な日々の生活をお祈りしてきた。戦前や戦後には、近所の子供たちが、学校から帰るとこのお堂の内で、色々の遊びを楽しんだ。

14 延命地蔵
えんめいじぞう
 道端の地蔵様で、いつごろからあるのかよくわからない。コンクリートブロックでできたうちの中に納まっている。近所の方がよくお世話されている。ちょうど琴芝小への通学路のそばにあり、いつも小学生の往来を見守っておられる。

15 道重上人誕生の碑と地蔵
みちしげうしんせいたん ひ じぞう
 道重信教上人は、安政3年(1856)この地に生まれた。東京に出て、浄土宗本校の教授となった。後、徳川家菩提所本山増上寺法主に就任し、明治天皇への御前講義もした。仏教の民衆化をはかり在家宗教を説き、席の暖まる暇の無いほど教化に専念し、「今一休」の異名で呼ばれていた名僧である。



16 皇太子殿下行啓記念碑
こうたいしでん かぎょうけいきねんひ
 この碑は、大正15年(1926)に皇太子殿下(のちの昭和天皇)がこられたのを記念して建てられた。昭和9年(1934)5月の建立である。

琴芝の由来
 琴崎八幡宮、元禄10年(1697)の上梁文に、「往昔有仙人、自百済国来、寄船於海岬、彈琴於是柴之地、端坐晏如、故邨謂琴芝、と見ゆ」とある。つまり、百済から渡ってきた船が寄港したとき、芝の上で琴を弾いたことから、琴芝と言うようになったというのである。

梶返の由来
 今から千百年以上も前、菅原道真公が京の都から太宰府へ左遷された船旅で、この地の沖を通ったとき、たまたま嵐に遭い、「楫(梶)を返して」避難されたといわれている。この地は昔、入江であった。

散歩コース
 ①常盤公園西駐車場→常盤神社→石炭記念館→野中道路→西駐車場(2.5km)
 ②常盤公園西駐車場→工学部通り→梶返北道路→清水川交差点→常盤中学校→西駐車場(5km)
 ③琴芝ふれあいセンター→神原中学校→産業道路→神原交差点→沼交差点→梶返北道路→琴芝ふれあいセンター(3.5km)
 ④宇部市立図書館→真綿川公園→西ノ宮橋→沼交差点→神原交差点→図書館(4km)



17 交通安全琴崎八幡宮の碑
こうつうあんぜんことざきはちまんぐう ひ
 宇部が村から一躍市になった頃、東新川から琴崎八幡宮に向けて道路(いわゆる参宮通り)が作られたが、当時の宇部にとっては大事業であった。そして大正13年(1924)に、この位置付近に、道をまたいで琴崎八幡宮参道入口を示す大きな鳥居(第一鳥居)が建てられた。ところが、車が増えて参道を広げた。そのため鳥居の片脚が道の真中に残って危険になることから、昭和40年(1965)の頃解体され、その記念碑としてこの位置に石灯籠が建てられた。



18 皇太子殿下御成婚記念碑
こうたいしでんかごせいこんきねんひ
 皇太子殿下(昭和天皇)成婚記念碑で、大正14年(1925)11月に建立された。

自然と歴史と未来がひびきあうまち琴芝

新鮮な空気を吸って テクテク歩こう

散歩コース
 ①常盤公園西駐車場→常盤神社→石炭記念館→野中道路→西駐車場(2.5km)
 ②常盤公園西駐車場→工学部通り→梶返北道路→清水川交差点→常盤中学校→西駐車場(5km)
 ③琴芝ふれあいセンター→神原中学校→産業道路→神原交差点→沼交差点→梶返北道路→琴芝ふれあいセンター(3.5km)
 ④宇部市立図書館→真綿川公園→西ノ宮橋→沼交差点→神原交差点→図書館(4km)



19 神原公園の石碑
かみはらこうえん せきひ
 昭和3年(1928)に、神原公園が天皇(昭和天皇)即位御大典を記念してできた。そしてこの石碑が、昭和5年(1930)に建てられた。なお、この位置に福原越後公の銅像があったが、第二次大戦のおり献納された。



20 旧県立宇部高等女学校記念碑
きゅうけんりつうべこうとうじょうがっこうきねんひ
 昭和62年(1987)12月、県女同窓会(美登里同窓会)がみどりの石を用いて建てた。現琴芝小学校は、かつて県女の乙女たちが学んだ夢の跡地である。

自然と歴史と未来がひびきあうまち琴芝

新鮮な空気を吸って テクテク歩こう

散歩コース
 ①常盤公園西駐車場→常盤神社→石炭記念館→野中道路→西駐車場(2.5km)
 ②常盤公園西駐車場→工学部通り→梶返北道路→清水川交差点→常盤中学校→西駐車場(5km)
 ③琴芝ふれあいセンター→神原中学校→産業道路→神原交差点→沼交差点→梶返北道路→琴芝ふれあいセンター(3.5km)
 ④宇部市立図書館→真綿川公園→西ノ宮橋→沼交差点→神原交差点→図書館(4km)

21 南向き地蔵
みなみむき じぞう
 寛保元年(1741)に建てられたお地藏様で、今から260年前のものである。南向きに立っているため地元では「南向き地蔵さん」と呼ばれている。

22 宇部紡績会社の跡
うべぼうせきかいしや あと
 渡邊祐策翁が大正6年(1917)創設。戦争末期、呉海軍工廠宇部分工場となり武器を製造していたが、米軍機の爆撃で壊滅した。のち宇部市立図書館がここに移転新築され、平成3年(1991)10月に開館した。紡績工場の外壁に使われていた赤レンガの一部をオブジェとして館庭に残している。

23 光善寺山門
こうぜんじ ざんもん
 真綿川の東にあり曹洞宗のお寺。新しく改築され、平成18年(2006)11月12日に落慶法要が営まれた。

24 出雲大社宇部教会
いずもたいしやう べきょうかい
 御祭神は、大國主大神。縁結び・交通安全・商売繁盛などを祈願目としている。明治時代、厚狭郡吉部村に奉斎されていたが、昭和3年に現在の地に遷座奉斎された。



■制作/琴芝まちづくりサークル「はーとふる琴芝」
 ■監修/梶返昭二 ■イラスト/◎うえだのぶ
 平成19年(2007年)3月